

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			基礎理化学	力学について物理学的な基礎知識から学び、それをどのように用いて人体の運動を理解するのかを手順に従って学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
2	○			医療概論	医療倫理と生命倫理の基本原則について、歴史的社会的及び哲学的な側面から概説する。	1通	60	4	○			○			○	
3	○			コミュニケーション論	演習及び傾聴の意味を理解し、医療人・社会人として必要な基本的態度を学び、コミュニケーション能力を身につける。	1前	30	2	○			○		○		
4	○			心理学	科学としての心理学の持つ方法論、研究内容、日常生活への応用などについて理解を深める。	1前	30	2	○			○			○	
5	○			人間発達学	子どもの発達を通して、人間の身体機能面や精神面での発達過程を学び、動作獲得に向けた運動療法実施のための背景に役立つように学習を進める。	1前	15	1	○			○		○		
6	○			情報統計論Ⅰ	パソコンを用いた報告書を作成する能力を身につける。また、理学療法実践者として、先人たちの記述した論文を検索できる。	1前	15	1	○			○		○		
7	○			情報統計論Ⅱ	大量のデータの中に存在する法則性を見出し、それらを解釈し意思決定に役立てることができるために、必要な基本を学ぶ。	1後	30	1		○		○		○		
8	○			基礎運動学Ⅰ	関節構成体の動きの仕組みについて基礎から学び関節運動の仕組みや特徴、筋活動と運動や姿勢との関連について知識を深める。	1前	30	1		○		○		○		
9	○			基礎運動学Ⅱ	身体運動学（キネシオロジー）や各関節の運動学を通して、内力外力、モーメント、支持基底面等について学ぶ。	2前	30	1		○		○		○		
10	○			医療基礎統合論	これまで学んだ科目（特に解剖学・生理学・評価学）の学習をフォローする目的で概略を学び直す。	1後	60	2		○		○		○		
11	○			人体構造機能学Ⅰ	生体内外の種々の変化に適応して生体全体として調和のとれた生命現象を勉強し、この状態を保つための神経系と体液性調節による機能を勉強する。	1通	60	4	○			○		○		
12	○			人体構造機能学Ⅱ	運動器（骨・関節・靱帯・骨格筋）それぞれの解剖学的特徴から、それらの機能を理解する。	1前	60	4	○			○		○		

13	○		人体構造機能学Ⅲ	神経系（中枢神経系、末梢神経系）ならびに内臓系（循環器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器）の解剖学的特徴を解説する。	1 後	60	2		○		○		○					
14	○		人体構造機能学Ⅳ	循環器、呼吸器に関する構造と機能を学び、理学療法実践者としての基礎的な知識を身につける。	1 後	15	1	○			○		○					
15	○		人体構造機能演習	人体構造機能学Ⅱで学んだ骨・靱帯・筋・神経・動脈について、模型の利用を通じて周囲の組織との位置関係をより深く学んでいく。	1 前	30	1		○		○		○					
16	○		基礎病態論	代表的な疾患について、その疾患に関する各論的な深い知識と、その際に生じる総論的な現象について理解する。	1 後	30	2	○			○						○	
17	○		臨床心理学	心理的問題を持つ人の臨床心理的アセスメントと心理的援助方法を解説する。	1 前	30	2	○			○						○	
18	○		精神疾患論	リハビリテーションを実施するうえで必要な精神疾患の病態・診断・治療に関する基本的知識を習得する。	1 後	30	2	○			○						○	
19	○		整形障害論	リハビリテーションで対象となる運動器障害の整形外科疾患の病態と治療について理解を深めていく。	2 通	60	2		○		○		○					
20	○		内部障害論	内部障害について解説する。これらを一つのまとまりある疾患として理解し表出できることを目的とする。	2 通	60	2		○		○		○					
21	○		神経障害論	神経障害の患者の症状の理解とリハビリテーションの関連性について理解を深める。	2 通	60	2		○		○		○					
22	○		発達障害論	障害を有した小児に対する医学的な評価法と理学療法の概略を学ぶ。小児期の各疾患治療・療法を通じてチーム医療の重要性を学ぶ。	2 通	30	2	○			○						○	
23	○		老年学	加齢に伴う心身の変化や、高齢者で問題になることが多い症候、病態、疾病について学ぶ。	1 後	30	1		○		○		○					
24	○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの概念を理解する。また、学んできた基礎医学とリハビリテーションの関連についても取り組む	1 通	60	2		○		○			##		○		
25	○		多職種連携論	チーム医療の意義、多職種間のコミュニケーションの知識・技術およびその重要性を学ぶ。	3 前	30	2	○			○		○					
26	○		生活環境論	障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するための基本的な理念と知識について学習する。	2 前	30	2	○			○		○					
27	○		運動療法総論	機能障害に対する運動療法を学ぶ。	2 通	60	2		○		○		○					

28	○		基礎理学療法学	機能障害に対する運動療法を学ぶ実習で行う評価技術を実践できるようにする。	3 前	30	1		○		○		○				
29	○		臨床運動学	リハビリテーションに必要な動きについて理解を深めていく。	2 後	30	1		○		○		○				
30	○		理学療法管理学	組織の能力を最大限に発揮させるための具体的な管理・教育について系統的に学び、リハビリテーション部門の管理について理解を深める。（栄養管理含む。）	3 前	30	2	○			○		○				
31	○		理学療法評価学Ⅰ	関節可動域測定、Danielsらの徒手筋力検査、四肢長・周径を中心に実施し、その検査の目的や結果の解釈について理解する。	1 通	150	5		○		○		○				
32	○		理学療法評価学Ⅱ	各症例情報をもとに障害像から評価項目の立案、評価方法の検討、さらに理学療法評価の実施、評価結果の解釈について展開していく。	2 通	150	5		○		○		○				
33	○		整形障害理学療法Ⅰ	機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする（画像含む）。	2 後	30	1		○		○		○				
34	○		整形障害理学療法Ⅱ	整形障害理学療法Ⅰに引き続き、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする（画像含む）。	3 前	60	2		○		○		○				
35	○		神経障害理学療法Ⅰ	中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする（画像含む）。	2 後	30	1		○		○		○				
36	○		神経障害理学療法Ⅱ	神経障害理学療法Ⅰに引き中 枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする（画像含む）。	3 前	60	2		○		○		○				
37	○		内部障害理学療法Ⅰ	基礎的な解剖、生理、内科学の知識を確認しながら理学療法を実践できるよう学んでいく。（画像含む）。	2 通	60	2		○		○		○				
38	○		内部障害理学療法Ⅱ	内部障害理学療法Ⅰに引き続き、理学療法を実践できるよう学んでいく。（画像含む。排痰・喀痰吸引法含む）。	3 前	30	1		○		○		○				
39	○		物理療法学	基本的な物理刺激が、物理療法として人体にどのように作用するかを学び、各治療機器の適応・禁忌・注意点を理解し操作及び治療を行えるようにする。	2 後	45	3	○			○		○				
40	○		義肢学	様々な義肢の適応と特性、ソケットの適合と義肢のアライメントについて理解することを目標とする。	3 前	30	2	○			○					○	
41	○		装具学	様々な装具の適応と特性、セッティングについて理解することを目標とする。	2 後	30	2	○			○		○				
42	○		理学療法技術論	理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する。	4 通	420	14		○		○		○				

43	○		理学療法治療学	スポーツ疾患などを中心とした整形外科領域の理学療法治療と、高次脳機能障害を中心とした中枢神経系理学療法治療について学ぶ。	4前	30	1		○		○			○	
44	○		卒業論文	理学療法領域における研究法を学び、論文を作成する。	4前	60	2		○		○		○		
45	○		日常生活活動学Ⅰ	日常生活活動に関する基礎的な知識を整理・確認をする。さらに理学療法との関係や意義を理解する。	2後	30	1		○		○		○		
46	○		日常生活活動学Ⅱ	日常生活活動学Ⅰで学習した内容を基に各疾患毎のADL指導の実際について理解を深める。	3前	45	3	○			○		○		
47	○		地域理学療法学Ⅰ	地域リハビリテーションの理念、歴史を理解し、介護保険法や関連法規を学び、地域で実践されているサービスについての理解を深めていく。	3後	15	1	○			○		○		
48	○		地域理学療法学Ⅱ	地域リハビリテーションの中で、理学療法士が行う実践活動を見学する。	4前	15	1	○			○		○		
49	○		臨床実習Ⅰ	学外実習および理学療法士が担当する検査・測定の実技体験学習を実施する。	2後	45	1			○		○	○		○
50	○		臨床実習Ⅱ	学外実習および理学療法士が担当する検査・測定の実技体験学習を実施する。	2通	45	1			○		○	○		○
51	○		臨床実習Ⅲ	検査・測定の技術を確実にするとともに、患者のもつ諸問題のうち理学療法の適応となる問題を把握するため、評価結果から問題点を抽出できるようにする。	3後	315	7			○		○	○		○
52	○		臨床実習Ⅳ	目標設定・治療計画立案・基本的理学療法手段の実施という一連の流れができることを目的とする。	3後	315	7			○		○	○		○
53	○		臨床実習Ⅴ	臨床実習Ⅱで実習した評価・問題点抽出に加え、目標設定・治療計画立案・基本的理学療法手段の実施という一連の流れを、内容を深めて実施する。	4前	315	7			○		○	○		○
合計				53 科目			128 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 所定の期間在籍し、全科目を履修し認定を受けること		1学年の学期区分	2期
履修方法： 履修単位制。授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えられ		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。